



1979年5月 No. 1

技術開発ニュース

研究紹介

- 可搬形リレー模擬故障試験器の自動化……………(2)
- 大口径コンクリートポールの開発……………(3)
- 改良型耐汚損終端箱の開発……………(4)
- 地中多回路ガス開閉器の開発……………(5)
- チタン製復水器管の伝熱性能向上に関する研究(6)
- 武豊火力4号排煙脱硝研究結果について……………(7)
- 半湿式電気集じん技術の研究開発……………(8)

○泰阜発電所取水口土砂流入防止対策の研究……………(9)

○配管UT(超音波探傷検査)に関する研究……………(10)

技術解説

○石炭液化技術の研究開発について……………(11)

研究設備紹介

○波浪水理実験設備……………(12)

特許出願

○昭和53年度特許出願件名一覧表……………(13)

不確実性時代に対応した独創的な技術開発を

—技術開発ニュースの発刊にあたって—

会長 加藤乙三郎



念願の浜岡原子力3号機の電源開発調整審議会決定に引き続いて、渥美火力3・4号機が着工の運びとなり、当社の最大の課題である電源立地が大きく前進しました。しかし今年に入ってから、我が国経済は円高により輸出が減退し景気が低迷しているさ中に、イランの政変が勃発し、石油価格の値上げ、最近ではエクソン等の供給削減通告に見られる石油の供給不安の気運が起り、これに影響されての円安と、昨今の経済情勢は全く目まぐるしく変化し、電気事業をとりまく経営環境の先行きは、予断を許さないものがあります。

米国の経済学者ガルブレイス教授は、今や世界経済は経済活動の自動調整メカニズムが硬直化して、従来の経済的通念が通用しない諸困難が発生し、所謂不確実な時代になったと言っております。

このような時代における研究開発の推進に際しては、電力の安定供給と言う電気事業に課せられた社会的使命の重要性をもう一度噛みしめると共に、目を大きく見開いて、グローバルな視野から、鋭敏な見識で変転極まりない時代の流れを洞察し、その中から新しいニーズを見出し、重要経営課題の解決に真に役立つ研究開発が望まれるのであります。

即ち、石油代替エネルギー源としての原子力発電の定着化のため安全性、信頼性向上に関する研究、電源立地の促進に役立つ環境保全技術の開発、地域協力研究、さらには省エネルギーの推進、経済性向上の研究などのため、従来より一層積極的に推進して頂きたいと思えます。

また、これらの研究開発にたづさわる人々の心構えとして、私は次の故周恩来中国前首相の言葉をおくりたい。「まず仕事に当り、次いでこれを批判し、そしてこれを改め、さらにこれを創造する(用批改創)」即ち、不確実性時代の中で未来を先取りするには先づ積極的に研究に取組みチェックアンドレビューを繰返し、独創的な新技術の開発をされんことを念願して止みません。

なお、今回社内の研究成果の周知とそのより有効活用を一層計かるため、従来の「技研ニュース」を発展させ、全社的な「技術開発ニュース」として発行されることになったことは、先の用批改創と相俟って意義があり、誠に時宜を得たものと思えます。

終りに臨み、日頃ご指導頂いている大学、国立研究機関および電中研関係各位にお礼申し上げますと共に、今後も変らぬご支援をお願いする次第であります。